資料２

ひらつか市民活動センター運営業務委託中間報告書

１　実施業務

ひらつか市民活動センターの設置及び管理等に関する条例及び施行規則に基づき、ひらつか市民活動センター（以下、「センター」という。）の管理等に関する業務全般を行った。

主な実施業務は次のとおり。

（１）市民活動推進のための施設及び設備を利用に供すること。

ア　センターを利用するものの利用承認に関する業務

【登録件数】

センター登録団体数	登録団体数	うち新規登録数
市民活動団体	324	4
一般団体	135	5
合計	459	9

イ　センターの会議室、特定設備及びレターケース等の利用承認に関する業務

【会議室等利用状況】

項目	区分	令和８年（２０２６年度上期）				令和７年（２０２５年度上期）				前年度差	増減率
		午前	午後	夜間	全体	午前	午後	夜間	全体		
団体数	会議室	451	472	354	1,277	452	450	336	1,238	39	103.2%
	ＭＴＧ	392	470	147	1,009	361	447	99	907	102	111.2%
	情報	38	19	3	60	36	20	7	63	▲ 3	95.2%
	作業	56	37	8	101	70	39	9	118	▲ 17	85.6%
	合計	937	998	512	2,447	919	956	451	2,326	121	105.2%
利用人数	会議室	4,657	5,290	3,536	13,483	4,706	5,460	3,262	13,428	55	100.4%
	ＭＴＧ	1,464	1,666	409	3,539	1,375	1,709	272	3,356	183	105.5%
	情報	47	29	4	80	45	26	8	79	1	101.3%
	作業	144	84	17	245	178	74	16	268	▲ 23	91.4%
	キッズ				47	7	13	0	20	27	235.0%
	合計	6,312	7,069	3,966	17,394	6,311	7,282	3,558	17,151	243	101.4%

令和８年度における会議室・ミーティングスペースの活用状況は、令和６年度の実績を大幅に上回った令和７年度を更に上回る実績となった。

これを受け令和８年度上期の館内施設全体での実績は、利用団体数が 2,447 件で前年度 2,326 件より 5.2%増、利用人数が 17,394 名で前年度 17,151 名より 1.4%増となった。

○会議室の利用団体数は前年度比 3.2%増、利用者数は 0.4%増となった 。

○ミーティングスペースの利用団体数は 11.3%の大幅増となったが利用者数は 5.5%増にとどまった。前年に引き続き、個人利用など利用者の少人数化傾向にあるためと思われる。

○作業スペースの利用回数減と、情報スペースの利用回数増は令和５年度より３年連続の傾向であり、印刷物等、情報の電子化が年々進んでいることも一因と思われる。

【会議室の稼働率】

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	上期
令和８年度	84.4%	80.6%	83.3%	84.9%	71.0%	79.6%	80.5%
令和７年度	78.5%	78.1%	78.1%	82.4%	72.4%	79.3%	78.0%

令和８年度上期の会議室稼働率は80%台を記録し、令和６年度より大幅に伸長した前年度（令和７年度）上期の78%をさらに上回る高い水準となった。
特に、４月から７月においては、大型連休がある５月も含めて全て80%を超える稼働率でいずれも前年同月を上回る高い水準となった。
８月はお盆の影響で50%台に留まっていた令和６年度以前と比べ、令和７年度に続いて70%台の高い水準を維持できている。
また、９月については３度にわたる悪天候によるキャンセルの影響を受けたものの、空き会議室の利用呼びかけなどの成果もあり79.6%と前年度と同等以上の水準となった。

【特定設備利用件数】

ロッカー小・小別	４０個／４０個
ロッカー大	１８個／１８個

【レターケース利用件数】

レターケース	７５個／８１個

ウ　センターを利用するものが、センターに設置する印刷機、複写機及びプリンターを使用した場合の使用料、並びに、たすけ愛文庫等の寄附金の収納（徴収）業務

【実施実績】毎月提出済み

【収納額】

月	印刷機	複写機 （コピー機）	プリンター	たすけ愛文庫等の 寄附金
４月	18,800 円	15,420 円	640 円	18,583 円
５月	14,340 円	7,550 円	2,460 円	8,089 円
６月	13,380 円	5,180 円	1,890 円	6,200 円
７月	11,670 円	8,940 円	390 円	9,600 円
８月	7,030 円	8,720 円	510 円	7,950 円
９月	8,330 円	10,770 円	1,550 円	8,616 円

（２）市民活動に関する情報を収集し、及び提供すること。

ア　ウェブサイト・メールマガジン・ＳＮＳ等による情報発信

【ウェブサイト】

①トピックス（センターの開館及び会議室の利用状況に関する情報、市民向け講座等の情報、平塚市情報等の掲載）

②イベント情報（市民活動団体イベント情報）

③助成金情報（適宜更新）

④ボランティア情報（適宜更新）

⑤イベント開催レポート（センター主催事業の報告等）

⑥ひらつかの風（発行に合わせて更新）

【センターウェブサイト】２０２６年９月末までアクセス状況

①計測期間：令和８年度　2026/4/1～2026/9/30（183日間）

②比較期間：前年同時期　2025/4/1～2025/9/30（183日間）

③ページビュー数（期間中に閲覧されたページの数）

今期：78,514 回　１日あたり：429 回

前期：76,480 回　１日あたり：369 回

④ユーザー数（期間中にサイトに訪れた人数）

今期：33,761 人　１日あたり：185 人

前期：22,464 人　１日あたり：123 人

【メールマガジン】

毎月１０日発行（４月～９月まで６回発行）（262 号／９月発行）

登録者数：404 名

【ＳＮＳ等】

「ソーシャルメディア利用申請書」を提出。

①Ｆａｃｅｂｏｏｋ：フォロワー392 人（前期：令和７年９月末 377 人）

②ＹｏｕＴｕｂｅ：登録者数 115 人（前期：令和７年９月末 115 人）

イ　情報紙の発行（年６回／隔月発行）

【ひらつかの風（情報紙）発行】

別紙「ひらつかの風第５０、５１、５２号」のとおり。

第５０号	５月１５日発行
第５１号	７月１５日発行
第５２号	９月１５日発行

ウ　ボランティア情報紙の発行（年１回）

【ひらつかの空（ボランティア情報紙）発行】

年度内の発行を予定
令和７年度と同様、ボランティア募集情報はセンターウェブサイトにて公開予定

（３）市民活動に関する調査及び研究を行うこと。

ア　センターを利用するものへのアンケート調査（結果の分析を含む）（年１回）

・第６回防災座談会開催（9/30）に向けて、昨年度実施したアンケート結果で災害時に協力できると回答した 68 団体に向けて、再度内容についての確認を行ったところ、58 団体が具体的な支援内容を提案いただいた。（防災座談会へ反映）

・年度末に向けてアンケート調査を実施する予定。

（４）市民活動に関する相談を行うこと。

ア　市民等からの次の相談を行い、相談記録を作成すること。

【相談件数】令和８年度上期の相談件数は以下のとおり。

年度	相談件数	うち一般相談	うち専門相談
令和８年度	187 件	94 件	93 件
令和７年度	150 件	76 件	74 件

相談件数は前年度 150 件に対し 37 件増の 187 件となっており、一般相談ではセンター施設利用に関する相談を中心に前年度比 18 件増の 94 件、専門相談では資金調達、組織運営の相談を中心に前年度比 19 件増の 93 件となった。

【相談内訳】

一般相談			
項目	令和８年度	令和７年度	前年度差
ボランティア関連	12	11	1
市民活動団体を知りたい	15	14	1
センター登録関係	8	5	3
団体をつくりたい	4	1	3
ＮＰＯ法人を設立したい	0	1	▲ 1
助成金に関する相談	0	2	▲ 2
組織運営に関する相談（運営・会計・広報・他）	3	2	1
協働に関する相談	0	1	▲ 1
センター登録関係施設利用について	11	0	11
その他	19	13	6
団体登録に関する相談	15	21	▲ 6
フォロー	7	5	2
合計	94	76	18

【専門相談】

専門相談			
項目	令和８年度	令和７年度	前年度差
資金調達	11	1	10
組織運営	16	6	10
情報・広報	8	2	6
法人設立	3	3	0
会計・税務	1	5	▲ 4
連携・協働	4	5	▲ 1
その他	34	30	4
フォロー	16	22	▲ 6
合計	93	74	19
一般相談＋専門相談	187	150	37

（５）市民活動に関する学習の機会及び市民活動を行うものの相互交流の機会を提供すること。

ア　市民等向け講座の実施（年７回）

【市民向け講座　２回実施】

講座名・講師等	実施日	参加者数
何かやりたい人の掘り起こしとつながりの場１ 「ご縁のえんがわ」	6 月 30 日（火） 18:00～19:00	参加者 6 名（登録団体 2 名、個人 4 名）、スタッフ 4 名 合計：10 名
地域活動に役立つ AI 講座 講師：(株) ボンド　代表取締役 市川靖洋氏・市川歩氏	7 月 18 日（土）	参加者 21 名（登録 10 団体 17 名、地域団体 4 団体 4 名） スタッフ 2 名　合計：23 名
何かやりたい人の掘り起こしとつながりの場２ 「ご縁のえんがわ」	8 月 25 日（火） 18:00～19:00	参加者 10 名（登録 4 団体 5 名、個人 5 名）、スタッフ 3 名 合計：13 名
協働事業の振り返りと成果共有会 団体報告:NPO 法人平塚のら猫を減らす会・NPO 法人ぜんしん・認定 NPO 法人フードバンク湘南・ひらつか着地型観光推進委員会・平塚花のまちづくりの会・平塚ユニバーサルデザインプロジェクト（以上６団体）	8 月 28 日（金） 14:00～16:30	参加者 36 名（登録 12 団体 17 名・自治会 3 名・市職員 5 名・他市町職員 3 名・議会 3 名・企業 1 名・オブザーバー4 名） スタッフ 3 名・協働推進課 3 名 合計：42 名

なるほど助成金講座（予定） ・日本郵便年賀寄附金助成金担当 ・平塚市協働推進課市民協働担当	10 月 31 日（土） 14:00～16:00	未定

イ　センターを利用するもの同士の交流会の実施（年１回）

講座名・講師等	実施日	参加者数
第 5 回支援者間交流会 講師：ソーシャルワーカー/社会保障ゲーム個人連携ファシリテーター　根本 真紀 氏 （平塚市社会福祉協議会と共催）	6 月 29 日（月） 14:00～16:30	参加者 45 名、講師 1 名、平塚市社会福祉協議会 3 名、 スタッフ 4 名 合計：53 名
第 6 回防災座談会 事例紹介：平塚市災害対策課 平塚市社会福祉協議会　芦川氏	9 月 30 日（水） 14:00～16:00	参加者 30 名（登録 14 団体 22 名・自治会 3 名・災害対策課 3 名・市社協 1 名・ＳＣＮ取材 1 名） スタッフ 4 名 合計：34 名

ウ　市民活動の普及のためのイベントの実施（年１回→２回）

【センターまつりの進捗状況】

実施内容	実施日	参加者数	決定事項
センターまつり意見交換会	4 月 17 日（金） 18:00～19:10	11 団体・11 名 協働推進課 1 名 センタースタッフ 4 名 合計 16 名	･20 回目を迎えるセンターを盛り上げるためのキックオフミーティング：意見交換
実行委員会発足	6 月 12 日（金）	11 団体・11 名	
第 1 回実行委員会	6 月 12 日（金） 18:00～19:30	8 団体 8 名 協働推進課 2 名 事務局 6 名 合計 16 名	・実行委員長、副実行委員長の選任 ･開催日時､参加団体数､委員会日程の確認
第 2 回実行委員会	7 月 10 日（金） 18:00～19:30	10 団体 10 名 協働推進課 2 名 事務局 4 名 合計 16 名	・出展団体募集状況 ・実行委員会企画検討 ・市民活動推進月間企画 ・広報スケジュール
第 3 回実行委員会	8 月 14 日（金）	8 団体 8 名	・参加団体確定（52 団体）

	18:00～19:30	協働推進課 2 名 事務局 5 名 合計 15 名	・会場レイアウト案 ・実行委員会企画確認 ・実行委員会協力企画（11 月市民活動推進月間企画）確認 ・パフォーマンススケジュール確認 ・広報スケジュール
第 4 回実行委員会	9 月 11 日（金） 18:00～19:30	9 団体 9 名 協働推進課 3 名 まちづくり政策課 2 名 事務局 4 名 合計 18 名	・広報スケジュール ・パフォーマンススケジュール確認 ・団体お手伝い確認 ・寄附募集 ・各企画確認

【センターまつりの実施】（予定）

実施日	参加者数	実施内容
11 月 29 日（日） 10:00～15:00		52 団体（延べ 54 団体）が出展予定

エ　特定非営利活動法人の会計・税務相談会の実施（年１回）

【会計・税務相談会　１回実施】

講座名・講師等	実施日	参加者数
会計・税務相談会 徳永、小原税理士	12 月～1 月にかけて予定	

（６）市民活動に係る人材の育成を行うこと。

ア　若者のボランティア参加を促進する事業の実施（年１回）

【夏休みこどもわくわくフェスタ 2026】

市民活動・地域活動への新たな担い手育成と市民活動団体のノウハウや専門性のＰＲを目的として第４回目の開催となる「こどもわくわくフェスタ」を実施した。地域に定着しつつあり、子どもはもとより保護者のボランティア活動や市民活動に対する関心度も高く、新たな市民活動への参画も期待できる。今年度は学生ボランティアサークル、一般団体等が出展枠できるチャレンジ枠も設け、その他の団体の出展もあった。

＊崇善公民館との共催事業

実施日	参加者数	実施内容
7 月 25 日（土） 10:00～14:00 （崇善公民館共催）	延べ 1,860 名 （一般：延べ 1,646 名 ／団体：延べ 214 名） 出展団体：18 団体 ＊対象：崇善・松原地区の小学生及び就学前の弟妹、地区外の子ども、保護者	・4 月 24 日（金）18:00～19:00 参加団体説明会 13 団体 （うち２団体はｚｏｏｍでの参加） ・7 月 24 日（金）15:00～17:00 前日準備 ・7 月 25 日（土）8:45～16:00 崇善公民館・ひらつか市民活動センター施設全体を活用して開催

イ　市民の市民活動参加を促進する事業の実施（年１回）

【市民の市民活動参加を促進する事業　１回実施】

＊下期に予定

（7）その他市民活動の推進に関すること。

ア　市との情報共有（センター運営状況の報告等）（毎月１回）

・情報共有は開館時随時実施

・ひらつかの風（市民活動情報紙編集会議：隔月）

・センターまつり実行委員会（６月～１２月／月１回）

・市と湘南 NPO サポートセンター理事会との情報共有・交換（四半期毎に実施）

議題はセンター運営の他、市民活動支援・協働の推進など重要項目について協議した。

【スタッフ内部ミーティングの実施　６回】

月	月日
４月	４月８日（水）
５月	５月７日（木）
６月	６月５日（金）
７月	７月８日（水）
８月	８月１０日（月）
９月	９月７日（月）

イ　センターの清潔さの維持のための最低限の清掃

【随時実施】

ウ　その他、市が参加を必要とした関係機関等のイベントなどへの参加（１～３回を想定）

【4 月 26 日（日）　平塚市緑化まつり出展　場所：平塚市総合公園（ひらつかのはらっぱ）】

実施日	参加者数	実施内容
4 月 26 日（日） 9:00～15:00	・来場者数：594 名 ＜内訳＞ ・390 名 （バッジ 195 個配布、来場者数算出方法 195×2＝390 人） ・たすけ愛文庫：204 冊	・センター出張ブース（市民活動／ボランティアに関する相談） ・たすけ愛文庫・バザー出展 ・缶バッジ販売・ステッカープレゼント（YouTube チャンネル登録）

【10 月 10 日（土）予定　ＴＯＫＡＩグローカルフェスタ出展：東海大学湘南校舎】

実施日	参加者数	実施内容
10 月 10 日（土） 9:30～15:30		予定

２　業務内容を履行するための要件に対する対応

（１）常時２名をセンターに配置すること。

・常時２名をセンターに配置し、業務内容に応じ増員をした

・湘南ひらつか七夕まつり開催に伴い、令和８年７月１日（水）午前９時から７月６日（月）１７時までの期間を休館とした。

（２）センターのウェブサイトを管理・運営すること。

・適切にセンターのウェブサイトを管理・運営した。

・市民活動団体情報ファイルを団体自身が編集できるよう引き続きサポートを行っている。

（３）センターは、平塚市立崇善公民館との複合施設であるため、同館との連携・調整をすること。

【相互利用実績】

崇善公民館→センター		上期	センター→崇善公民館		上期
団体数	令和８年度	33	団体数	令和８年度	58
	令和７年度	35		令和７年度	76
利用者数	令和８年度	93	利用者数	令和８年度	407
	令和７年度	375		令和７年度	555

（４）必要に応じて関係機関や専門家等との連携・調整をすること。

※関係機関とは、公共団体、教育機関、他センター、社会福祉協議会、法人などをいう。

【関係機関や専門家との連携実績】

関係機関名・専門家	実施日	連携・調整内容
神奈川県「ＮＰＯの組織基盤強化のための伴走支援事業」 主催:一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ 名称:かながわＮＰＯ伴走応援プログラム	8 月 5 日(水) 13:30～16:00 キックオフ会 8 月 5 日(水) 16:00～17:00 伴走サポーター会議 9 月 14 日(月) 15:00～16:00 サポーター個別会議	組織の継続・基盤強化に取り組む意欲のある神奈川県内の NPO 法人を対象にした伴走応援プログラム。(令和８年度はエントリー20 団体) *契約：湘南 NPO サポートセンター
平塚市社会福祉協議会との連携	ボランティア情報、活動団体の情報提供、防災連携（*１）、重層的支援体制整備事業（*２）、等適宜情報交換を行った。 （*１）防災座談会　（*２）支援者間交流会	
包括支援センターゆりのきとの連携	地域福祉に関する情報の共有、相談内容（個人情報は省く）の共有など、適宜情報交換を行った。	
崇善公民館、崇善地区自治会連合会との連携	崇善公民館との連携による会議室の相互利用、事業の共同開催、協力。崇自連との情報交換、地域課題の共有適宜	
神奈川県内の支援センターとの連携	神奈川県主催のＣＥＯミーティングの他、各支援センター間で必要に応じて情報交換を実施した。 ・令和８年度神奈川県ＣＥＯミーティング：２名参加 9 月 10 日（木）13:30～17:00	

３　事業総括

【自由記述】

（１） センター利用団体から見える活動分野の特徴

神奈川県のＮＰＯ法人の活動分野別の件数を見ると、保健・医療・福祉が 793 件、子どもの健全育成が 629 件、連絡・助言・援助が 530 件、社会教育が 527 件、まちづくりが 422 件と続いている。

一方、センターの利用団体を分野別に見ると、保健・医療・福祉と学術・文化・芸術・スポーツがそれぞれ 20.3%と最も多く、次いで子どもの健全育成が 17.7%、国際協力が 13.6%となっている。

このことから、センターを利用する団体では、県全体のＮＰＯ法人の活動分野と比較して、学術･文化･芸術･スポーツや国際協力の分野の団体が比較的多いことが特徴として挙げられる。特に、囲碁の普及やスポーツ吹き矢などに取り組む団体、日本語支援を行う国際交流協会やカベラ日本語の会などが、会議室を定期的に利用していることが、これらの分野の利用割合にも

表れていると考えられる。
平塚市では、制度上のＮＰＯ法人だけでは捉えきれない、趣味・文化・スポーツ・国際交流などを入口とした市民活動が、センターの利用という形で見えている

（２）委託契約書による事業の進捗状況
契約書の内容に従い、市民向け講座など各事業、定期刊行物発行、協働推進課との定期的な情報共有等々､上期は遅滞なく履行できた。

（３）人材育成（スタッフ研修）
ア　センター主催講座及び事業への参加
こどもわくわくフェスタ、支援者間交流会、防災座談会等、ご縁のえんがわ、等。
団体と共に参加し学ぶことで団体の現状把握、相談力向上に努めた。
イ　湘南ＮＰＯサポートセンターとして県の事業に参画
・神奈川県ＮＰＯの組織基盤強化のための伴走支援事業「かながわＮＰＯ伴走応援プログラムへの参画」（３年目）
・神奈川県「ＮＰＯ活動基盤づくり補助金」事前相談受付の対応（１年目）
上記事業に参画することで中間支援者としての学びを深め、センターでの相談対応に活かしている。
ウ　団体活動の現場訪問。情報紙「ひらつかの風」では、取材した団体の情報をまとめ掲載している。活動の現場に出向くことで、活動の様子を直接知ることができ、団体との距離感が縮まる。また、読み手にわかりやすい文章を書くことはスタッフの人材育成にもつながっている。
エ　スタッフミーティングにて、①認知症サポーター研修（５月)、②プロジェクター機器の使い方研修（８月）を実施した。

（４）ＮＰＯ／市民活動団体支援の現状から
以下の調査等によると、令和８年度におけるＮＰＯを取り巻く課題として、主に次のような点が挙げられている。
ア　国際対話ネットワークの拡大
世界と日本の課題解決に貢献する「行動するシンクタンク」としての役割を強化するため、組織改革が求められている。（言論ＮＰＯ）
イ　市民参加型の言論プラットフォームの形成
課題解決型の言論プラットフォームを形成し、市民が主体的に考え、参加できる環境を整えることが求められている。（言論ＮＰＯ）
ウ　セーフティネットの構築
孤独・孤立対策において、課題解決型の支援と、継続的につながり続けることの両立が重要

とされている。（株式会社　ＮＴＴデータ経営研究所）

また、これらの課題に継続的に取り組むためには、ＮＰＯが多様な収入源を確保し、安定した活動基盤を構築することも重要であるとされている。（内閣府ＮＰＯ）

これらは全国レベルの調査・報告から見える課題であるが、平塚市のセンターにおいても、団体の活動継続や組織運営に関わる課題が顕在化している。
特に、２０年以上にわたりＮＰＯ法人格を取得して活動してきた団体の解散や、センターへの登録抹消が見られるようになっている。

【参考】
・令和８年４月～９月　解散ＮＰＯ法人：３件（いずれも設立から２０年以上経過）
・市民活動センター登録抹消：９件（市民活動団体９件、一般団体０件）

登録抹消の主な理由としては、団体構成員の高齢化、事業の継承ができないこと、役員の担い手不足などが挙げられる。これらの背景には、次世代の担い手を育て、活動を引き継いでいくことの難しさがあると考えられる。

人材の発掘・育成は、短期間でできるものではない。だからこそ、日々の活動の中で新たな担い手や関係者との接点を意識的につくり、活動の裾野を広げていくことが重要である。
また、従来の事業をそのまま継続するだけでなく、社会や地域の変化に合わせて事業を見直し、必要に応じて「モデルチェンジ」していく視点も、今後の活動継続には必要と考えられる。
こうしたことから、今後のＮＰＯ・市民活動団体への支援においては、資金調達や組織運営の支援に加え、「人を育て、つなぐ」「活動を見直し、変えていく」ための支援も重要な要素となる。

（５）平塚市社会福祉協議会との連携「防災座談会」（＊１）
９月末に第６回を開催した。災害対策課及び社会福祉協議会から、復興支援の現状について説明を受けるとともに、被災者を支えるうえで、ＮＰＯ・市民活動団体が持つ多様な力が必要とされていることを共有した。
平時から分野を越えて団体同士がつながり、災害時にも協力できる関係を築いておくことが重要である。現在、これまでのつながりを生かし、災害時の連携につなげるための「防災連携ネットワーク」の冊子を作成している。
今後は、冊子の作成にとどまらず、平時から顔の見える関係をつくり、いざという時に協力し合えるネットワークの形成につなげていきたい。

（６）平塚市社会福祉協議会との共催「支援者間交流会」（＊２）

６月に第５回を開催した。市内の支援機関、ＮＰＯ・市民活動団体及び市の各担当課の職員にも参加いただき、「社会保障ゲーム」を活用したワークショップを行った。

複雑な課題が絡み合うケースについて、支援者同士が膝を交えて考え、話し合うことで、一つの分野・機関だけでは解決が難しい課題に対して、分野を越えてつながることの必要性を共有する機会となった。

今後も、支援者同士が顔の見える関係をつくり、それぞれの専門性や資源を生かしながら連携できる環境づくりを進めていく。年度末には、これまでの交流をもとに、支援者間ネットワークのパンフレットを作成する予定である。

（７）市民活動を次世代につなげる仕組み

昨年度開催した「どまのまど」に続き、令和８年度は「ご縁のえんがわ」と題し、これから何かを始めたい人、仲間をつくりたい人、活動のヒントを得たい人などが集まり、交流できる場を偶数月に開催している。

「どまのまど」で生まれたつながりが「ご縁のえんがわ」に引き継がれ、そこから新たな活動につながる動きも生まれている。

こうした取り組みを単なる「交流の場」の開催にとどめず、出会いをきっかけに、活動を始める・仲間をつくる・一歩踏み出すところまで支えることが重要である。

今後は、参加者同士のつながりを継続的に支え、新たな活動や担い手の誕生につながるよう、フォローアップの仕組みをさらに強化していきたい。

以上